

## あとがき

頃は江戸時代後期。今から140年前の安政元年(1854)11月4日午前8時すぎに大地震が発生した。房総から土佐にかけて大津波があり、おびただしい数の死者が出た。安政の大地震である。記録に残された被災からの推計によるとマグニチュード8.4クラスだったという。

先頃、この安政の大地震の被災状況を載せた「地震津波末代噺能種(はなしのたね)」という書物が、震災で全壊した神戸市内の古書店主の自宅から偶然にみづかり話題になった。挿絵には、余震におびえる庶民の様子や急ごしらえの仮設住宅が描かれ、「大道へたたみを敷き、あるいは小屋を掛け、夜明し申し候事、前代末聞の事ども也」とあって、とても140年前の出来事とは思えない。

関西に暮らす我々にとって、地震は別の世界の出来事であった。震災を経験する前であれば、この本の発見も世間の関心を呼んだかどうか。

兵庫県歯科医師会では、被災会員の救済に努める傍ら、この未曾有の経験を整理し、次代に伝えるために「震災マニュアル検討部会」を設置し、震災発生以来の歯科界の対応を報告書形式でマニュアル化する作業に着手した。

兵庫県歯科医師会の各担当部門が、地震発生から今日まで、それぞれの分野でどう対応してきたか、被災した歯科医師が地域歯科医療をどのように確保し、自院をどう建て直してきたか。本書には体験した者だけが示し得る数々のドラマが記されている。単なる被災記録ではなく、今回の震災でできたこと、できなかったことを明確にし、問題提起を行ったつもりである。この報告書と提言が「話の種」に終わらず、災害対策の指針の一助となれば幸いである。

また、このたびの被災に対して、全国から寄せられた温かいご支援、ご援助に対し、この冊子の発行が幾分かの感謝の気持ちを代弁するものでありたいと願うものである。最後に、出版に際し多大の助力を頂いた事務局および神戸新聞総合出版センターの方々に感謝申し上げたい。

震災マニュアル検討部会

「大震災と歯科医療」編集委員

和田 透	豊川 輝久	小坂 修
村瀬 進	砂川 一夫	島田 桂吉
大頭 孝三	関川 健	辻 忠良
橋本 猛伸	前田 孝俊	田中 義弘
川越 健一郎	飯田 浩司	